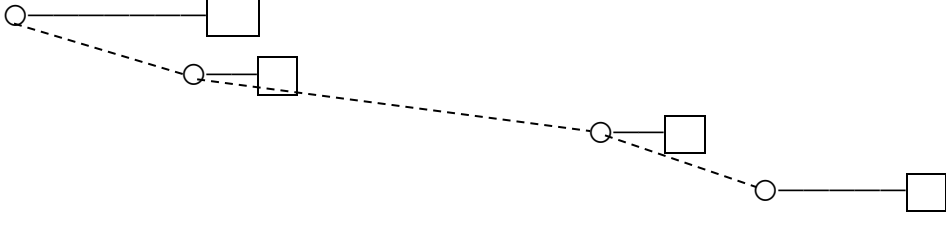


コマツナのグリーンな栽培マニュアル

1 作 型

月 作型	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	品 種
	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	
中山間 (ハウス)													

○：播種可能期間 □：収穫

2 栽培ポイント

① 圃場準備

施設栽培の連作圃場では、土壌中に残存する肥料を考慮し、施肥設計を行う。
施肥前には土壌診断を行い、適正な施肥量を守る。

② 播種

耕起前に十分灌水、適度な土壌水分で整地し、団粒構造を壊さないよう注意するとともに、は種後の均一な発芽を促す。

灌水は生育中期までとし、収穫期は乾燥気味にする。

③ 害虫防除

・キスジノミハムシ

アブラナ科植物を餌とする。

被害は夏期～初秋に多く、

夏期の高温乾燥条件下で発生が助長される。

成虫が葉を食害し、丸い小孔（直径約1mm）を開ける。

成虫で土中浅く潜入するか、地表面に落ちた葉の下などに隠れて越冬する。

<対策>



▲キスジノミハムシとその食害痕

残渣を圃場外へ持ち出す。

太陽熱消毒（ハウスサイドなど、温度の上がりにくい場所に要注意）

早春までに圃場周辺のアブラナ科雑草を除草しておく。

0.6mm 目合い防虫ネットと近紫外線除去フィルム（UV カットフィルム）を併用すると外部からの侵入防止効果が期待できる。



▲0.6mm 目合い防虫ネット



▲0.6mm 目合い防虫ネット
と近紫外線除去フィルムの併用

・ダイコンサルハムシ

アブラナ科植物を餌とする。

ダイコンサルハムシの成虫▶

被害は晩夏から秋にかけて多い。

成虫、幼虫ともに葉脈を残して大小の孔をあけて食害する。

手で触れたり葉を動かしたりすると、すぐに落下する習性がある。

成虫で雑草地や石垣の隙間などに隠れて越冬する。

<対策>

アブラナ科以外の品目に変える。

おとり作物によってダイコンサルハムシを誘引し圃場外へ持ち出す。



④ 収穫・出荷

傷んだ葉を取り除き、200 g 程度の束にして出荷。

3 除草対策

① 圃場内

完熟たい肥の利用、太陽熱消毒、ハウス入り口付近に除草シートを敷くのも有効。

② 圃場周辺

平面では、リモコン草刈機を用いることで、除草時間が刈払機の約 1/3 になる。

ただし、急斜面ではウインチ（巻き上げ機）を使う必要があり、導入の際は使用場面とともに維持管理コスト等も併せて慎重に検討する必要がある。

リモコン草刈機による除草の様子▶

